



TITLE:

現代的保險ノ成立(一)

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

---

CITATION:

小島, 昌太郎. 現代的保險ノ成立(一). 經濟論叢 1917, 5(1): 65-84

ISSUE DATE:

1917-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127232>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 經濟論叢

號一第 卷五第

行發日一月七年六正大

## 論說

生物進化論ノ誤解

理學士 川村多實二

露國ノ資本主義ト最近ノ大革命

米田庄太郎

飛脚ノ變遷

法學士 本庄榮治郎

現代の保險ノ成立

法學士 小島昌太郎

## 時事問題

英國特惠稅問題

法學博士 戸田、海市

會社使  
用人ノ慰勞賞與金ニ對  
所得稅課賦問題

法學博士 神戸正雄

## 雜錄

經濟雜話

法學博士 田島錦治

所謂“Welfare Work”ニ就キテ

山本美越乃

群馬縣ノ製絲業

法學士 河田嗣郎

基礎社會ノ發達ニ就イテ

文學士 高田保馬

國民經濟講話及貧乏物語

瀧本誠一

# 現代の保險ノ成立(二)

小島 昌太郎

## 序 論

現今我國ニ行ハルル保險ハ生命保險・海上保險・火災保險其主ナルモノニシテ、此外、陸上運送・誠實(所謂信用保險)<sup>1)</sup>・傷害・徵兵・盜難・自働車・機關汽罐等ノ保險ガアル。乍併、保險ノ種類ハ啻ニ是等ニ止マラズシテ歐米先進國ニハ此外更ニ多種多樣ノ保險ガアル。今假ニ其主ナルモノヲ擧グルダケデモ、疾病・癱疾・信用・電害・霜害・家畜・硝子・暴風雨・水管・責任・失職等ノ保險ヲ數フルコトガデキル。而シテ是等ノ保險ハ私人ガ營利的又ハ相互的ニ經營セルモアレバ、國家其他ノ公法團體ガ經營シテキルノモアル。又是等ノ保險ハ私人ノ自由意思ニ基ク契約關係ヲヨリテ行ハレテキルバカリデナク、又國家ノ強制ニ基ク公法關係ニヨリテ行ハルルモノモアル。

カクノ如ク、今日行ハレテキル保險ハ其種類ト云ヒ其形態ト云ヒ甚ダ多樣デアルガ、其『保險』タルニ於テハ皆同一デアル。從ツテ今日實世間ニ於テモ將タ學問界ニ於テモ單ニ『保險』ト云ヘバ、是等總テヲ含ム所ノ統一的概念ニ於ケル保險ノコトデアル。故ニ學問的ニ保險ヲ研究シ、其本質ヲ説明スルニ當ツテハ、右述ベタル各種ノ保險ヲ含ム所ノ統一的概念ニ基イテ論ヲ立ツベキモノデアツテ、其中ノ或モノヲ含ミ或他ノモノヲ含マナイ様ナ概念ニ基クベキモノデナイ。若ン然ラ

1) Fidelity Insurance.  
2) Credit Insurance.

ザレバ、到底『保險』ナルモノノ眞ノ本質ヲ闡明スルコト能ハヌデアラウ。

次ニ、今日學者ガ學問的ニ其本質ヲ闡明セントスル保險ハ、今日實世間ニ存在シ現代ノ經濟生活ト密接ノ關係ヲ有スル保險デアツテ、假令過去ニ於テ保險ナル名ヲ有セシコトアリトモ、既ニ消失シタルモノ、又ハ保險ノ範圍外ニ脱出シタルモノハ、其研究ノ中ニ入ルベキモノデハナイノデアル。故ニ保險ノ本質ヲ研究スルニ付イテハ、先ツ、今日ノ統一的概念ニ於ケル保險、即チ所謂現代的保險 Modernen Versicherung; Modern Insurance ハ如何ニシテ成立セシカラ歴史のニ研究セシバナラヌト共ニ、此現代の保險以前ニ於テ既ニ保險ナル名ヲ有セシモノハ如何ナルモノデアツテ、ソレガ如何ニシテ現代の保險ニ進化シタリシカラ研究セシバナラヌ。余ハ曩ニ大方識者ノ叱正ヲ乞ハンガ爲メ、『保險學說ノ發展』<sup>3)</sup>及ヒ『保險本質論』<sup>4)</sup>ヲ發表シタルガ故ニ、前論ニ繼承シテ此ニ『現代の保險ノ成立』ト題シ、現代の保險成立ノ經過ヲ其史の事實ニ基キテ論述セント欲ス。

## 第一 現代の保險成立期

### 一

現代の保險即チ今日吾々ノ經濟生活ト密接ナル關係ヲ有スル保險ハ、凡ソ第十八世紀ノ前半期ニ於テ、英國特ニ倫敦ニ於テ成立シタルモノデアル。而シテ其成立ノ最モ顯著ナル具體の事實ヲ舉グレバ、一七二〇年六月二十四日、同時ニ設立免許狀ヲ受ケタル The London Assurance Corporation 及 The Royal Exchange Assurance Corporation ノ二會社ノ設立デアラウ。此二會社ハ

3) 本誌第一卷第六號及第二卷第二號

4) 本誌第三卷第一號及第四號

共ニ海上保險ニ付キテ獨占權ヲ賦與セラレタルモノデ、設立當初ハ海上保險事業ノミヲ營ミシガ、翌年ヨリ火災保險ト生命保險トヲ兼營スルコトトナツタノデアアル。<sup>5)</sup> 該免許狀ニヨレバ、兩會社ノ獨占權國ニ於テハ此免許狀交付ノ日ヨリ後ハ、海上保險事業ハ兩會社以外ニ於テハ個人保險者ニアラザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ。會社組合其他如何ナル團體モ、既存ノモノト新立ノモノトナ問ハズ、一切海上保險契約タヘ之ト類似ノ契約ヲ締結スルコトヲ得ズ。若シ斯ノ如キ契約ヲ締結スルモノアルトキハ、其契約ハ當然無効ニシテ、且ツ其契約金額ト<sup>6)</sup>同額ノ罰金刑ニ處セララルモノデアアル。此兩會社ノ特權ハ一八二四年ニ至ルマデ存續シタ。余ハ此一七二〇年前後ノ時期ヲ以テ、現代の保險ノ思想ガ圓熟シ、且ツ現代の保險事業ガ始メテ吾々ノ經濟生活ニ顯ハレタ時期デアルト認ムルノデアアル。此時期以前ニ於テモ、實質ニ於テ保險類似ノ作用ヲナス經濟上ノ仕組ハ色々存在シタ。乍併、一般ニ弘ク保險ナル名ヲ以テ行ハレタモノハ所謂海上保險ノミニ止マツテ其他ニハ殆トナカツタ。然ルニ此時期ニ至ツテ、火災保險及生命保險ナル名稱モ一般ニ弘ク用キラレ(註)又其保險タルノ實モ具ハル様ニナリ、海上保險モ原始的の海上保險ノ狀態ヲ脱シテ漸ク現代の保險トナツタノデアアル。故ニ余ハ此一七二〇年前後ノ時期ヲ以テ現代の保險成立期ト名ヅク。

註 第十八世紀以前ニ於テハ未ダ Fire Insurance 及 Life Insurance ト云フ纏リタル語ナク、只 Insurance upon Life ナル語アリテ此語ハ海上保險者ガ船長乗組員又ハ旅客ノ航海中ノ海難又ハ海賊ニヨル危險ヲ保險シタル場合ニ用非ラレタノデアアル。故ニ今日所謂 Life Insurance ナルモノトハ多少其趣ヲ異ニス。

## 二

現代の保險成立ノ時期タル第十八世紀ノ始メハ如何ナル時期デアルカト云ノニ、當時歐洲ニ於テ政治上最モ優越ノ地位ヲ占メテオツタモノハ佛國(るい十四世及ビ十五世ノ時代)デアツテ、英、

- 5) F. Martin, The History of Lloyd's and Marine Insurance in Great Britain, (London 1896) pp. 86 sqq.; A. F. Jack, An Introduction to the History of Life Assurance, (London 1912) p. 236.; Zartman, Yale Reading in Insurance, Fire Insurance, (New Haven 1909) p. 6.
- 6) Martin, ibid. pp. 97-99., 290 sqq.



### 三

前述ノ如ク前記ニ保險會社ハ一七二〇年六月二十四日ニ設立セラレ、所謂南海投機熱ハ同年四月七日ヨリ九月初旬迄繼續シタノデアルカラ、此ニ保險會社ハ恰モ此熱狂期ノ真中ニ幾多ノ泡沫會社ト相共ニ浮薄ナル一時ノ勢ニ驅ラレテ設立セラレタルカノ觀ガアリ、從ツテ此會社ノ設立アリシコトヲ以テシテハ、此時代ニ適當ナル經濟上ノ理由ガアツテ現代の保險ガ成立シタモノデアルトノ具體的證據トスルニ足ラヌト見ユルカモ知レヌ。乍併、現代の保險ガ此時代ニ成立シタモノデアルト云フハ、單ニ此ニ會社ノ設立アリシコトノミヲ以テ之ヲ推斷スルニアラズシテ、後ニ述ブベキ幾多ノ理由ヨリ見テ之ヲ言フノデアル。且ツ此ニ會社ノ設立ノ事情モ亦、他ノ同時代ノ泡沫會社ト大ニ趣キヲ異ニシ決シテ浮薄ナル一時ノ勢ニ驅ラレタモノデナイノデアル。抑モ株式會社ヲ設立シテ海上保險ヲ營マントスル計劃ハ佛國及英國ニ於ケル投機熱狂期ヨリモ數年以前ニ存シテ、其計劃ガ漸ク具體的ニ世間ニ發表セラレタノハ實ニ南海投機熱ヲ去ル四年以前ノコトデアッタ。即チ一七一六年ニびりんぐすれ S Billingsley ナル人、株式會社組織ニテ一百乃至二百萬磅ノ資本ヲ以テ The Public Assurance Office ト名ヅクル保險會社ヲ設立スルノ計劃ヲ發表シ、二年ノ年月ヲ重ネテ倫敦ノ商人及ヒ地主等二百八十六人ノ賛成ヲ得、一七一八年一月廿五日會社設立免許ノ請願書ヲ政府ニ提出シタニ始マルノデアル。前述ノニ保險會社ハ此びりんぐすれノ計劃ニ其源ヲ發シ之ガ幾多ノ迂餘曲折ヲ經テデアガツタモノニ外ナラヌノデアル。故ニ此ニ會社ノ設立ハ多少久シキ根底アルモノデアツテ、南海投機熱時代ノ浮薄ナル一時ノ勢ニ驅ラレタモノデナ

8) Palgrave's Dictionary of Political Economy, Vol. I. p. 183.

## イコト明デアル。

註 此びりんぐすれいノ請願書ハ個人保險者ノ強烈ナル反對ニ遇ヒ遂ニ會社設立ノ免許ヲ受クルコトガデキナカツタ。然ルニ、直ニ此計劃ヲ承テ繼イテ政府及ヒ國會ニ對シテ運動ヲ繼續シタモノガアル。ソレハ當時上院議員ニシテ政界ニ相當勢力ヲ有セシあんずるウ卿 Onslow トシチマン卿 Chetwynd トデアル。此二卿ノ計劃ハ一會社ヲ設立セントスルニアラズシテ、相協同シテ二ツノ會社ヲ設立セントスルデアツタ。而シテおんずるウ卿ノ方ハ前ノびりんぐすれい派ノ人々ヨリ成ル會社デ資本額一百一十五百二十萬磅、しゅとわん卿ノ方ハ全ク別派ノ人々(主トシテ佛國ヨリ移住シタル新教徒ニシテ當時倫敦ノ大商人)ヨリ成リ資本額二百萬磅デアツタ。此二卿ノ計劃ハ共ニびりんぐすれいノ計劃ト殆ド同ジモノデアツタガ、只一ツ大ニ異ル所ハ海上保險ヲ會社トシテ營ムニ付イテ獨占權ヲ獲得セントスル點デアツタ。ソレ故ニ此二卿ノ請願書ガ下院ニ提出セラルルヤ、之ニ對スル反對ノ聲ハ前ノびりんぐすれいノ計劃ニ對スルヨリモ甚タシカツタガ、二卿ハ常ニ相連合シテ巧妙ナル運動ヲ繼續シタカラ、幾多ノ曲折ヲ經テ一七二〇年六月遂ニ會社設立并ヒニ獨占權賦與ニ付イテ同時ニ特許狀ヲ發セラルルコトナツタノデアル。之ガ前述ノ二保險會社デおんずるウ卿ノ方チ Royal Exchange Assurance Corporation ト云ヒしゅとわん卿ノ方チ London Assurance Corporation ト云フノデアル。斯ノ如ク二保險會社ハ久シキ以前ヨリノ計劃ニ由リ、數年間ニ亘ル運動ノ結果設立セラレタモノデアルカラ、南海投機熱當時ノ熱狂的氣分ガ多少其設立ヲ助クル所アリシニシテモ、而モ亦、其設立ヲ以テ當時ノ多クノ泡沫會社ノ如ク一時ノ浮薄ナル勢ニ驅ラレタモノト見ルコトハ決シテ穩當デナイ。此二保險會社設立ノ事情ニ付イテハ Martin, History of Marine Insurance pp. 86 sqq. ニ記載アリ。

## 四

却説、現代的保險ハ第十八世紀ノ始メニ成立シタルモノナリト云フコトヲ説クニハ、(一)現代的保險トハ如何ナルモノナルカ、(二)現代的保險成立以前ニ於テ實質上保險類似ノ作用ヲナセシ經濟上ノ仕組ハ如何ナルモノナリシカ、(三)此等ガ如何ニシテ第十八世紀ノ初メニ融和シ統一サレテ現



代的保險トナリシカヲ説明セネバナラス。乍併現代の保險ノ如何ナルモノナルカト云フコトニ付  
イテハ、曩ニ『保險學說ノ發展』及ヒ『保險本質論』ニ於テ其學問的解説ヲナシタルガ故ニ、此ニハ  
單ニ、今日『保險』ナル名ニヨリテ世人ガ理解スル所ノア、モノデアルト答フルニ止メテ置キ、コ  
レヨリ直チニ、第十八世紀以前ニ於テ保險類似ノ作用ヲナセシ種々ナル經濟上ノ仕組ノ説明ニ移  
ルデアラウ。但シ是等ノモノノ中第十八世紀ノ初メニ現代の保險ニ轉化シタルモノハ、主トシテ  
海上保險・生命保險・火災保險類似ノモノノミデアルカラ、此ニ述ブル所モ專ラ是等ノ範圍ニ局限  
スルコトトスル。(註)而シテ今日ニ於テハ、海上保險モ生命保險モ將タ火災保險モ一樣ニ保險タル  
ニ於テハ皆同一デアルガ、是等ガカク統一融和シタルハ、前述ノ如ク第十八世紀ノ初メデアツテ、  
其以前ニ於テハ各其淵源ヲ異ニシテ居ルモノデアルカラ、之ガ説明ハ自ラ其各個ニ付イテナサネ  
バナラス。

註 現代の保險成立以前ニ於テ實質上保險類似ノ作用ヲナシタルモノハ、當ニ此三種保險類似ノモノノミニ止マズ、此外陸上  
運送・竊難・旅行傷害・家畜・農作物等ノ保險ニ類似スルモノモアツタ。乍併是等ハ只今日ヨリ見テ、當時保險類似ノ作用ヲナ  
シタリト云フニ止マリ、是等ノモノヨリ今日ノ陸上運送保險等ガ進化シタノデハナイ。今日ノ陸上運送保險等ハ海上保險生  
命保險火災保險等ガ現代の保險トシテ成立シタル後ニ、之ヲ模範トシテ成立シタルモノデアアル。

## 第二 現代の保險成立以前ニ於ケル海上保險

抑モ保險ナル名ヲ有スル經濟上ノ仕組ニシテ最モ早ク世ニ顯ハレタルモノハ海上保險デアアル。

而シテ此原始的海上保險ハイツ頃ヨリ世ニ顯ハンタノデアルカト云フニ、通説ニ從ヘハ其發顯ノ時期ハ第十四世紀ニシテ、其發顯ノ地ハ伊太利ノ諸郡府特ニセのあ、ふろおれんつ、びさ、べねちや等デアルト云フ。<sup>9)</sup>而シテ此十四世紀發顯説ノ中ニモ詳シク言ヘバ種々ナル説アリテ、ばるでつすす Pardessus ハ一三三〇年ノふろおれんつノ古文書ニハ既ニ海上保險ニ關スル記事アリト云ヒ、ベンズ Bansa ハかりやり (Gagliari) なるぢにあノ首府)ノ港商人組合ノ記録ニシテ一三一八年ノモノト推定サルルモノノ中ニ、海上保險ニ關スル最古ノ記事ヲ發見シタリト云ヒ、更ニ進ンデハバるどしめみつと Goldschmidt ハふろおれんつノ織物業組合ノ一三〇一年ノ日附アル古記録ガ其最古ノ文獻ナリト云フ等、其前半期ヲ主張スルモノガアル。<sup>10)</sup>乍併是等ハれあつツ Reatz 及ヒしやうツ Schaubé ノ研究ニヨリテ總テ覆サレタルガ故ニ、其發顯ハ第十四世紀ノ後半期ナリト認ムルガ最モ穩當デアルト信スル。<sup>11)</sup>

然ラバ海上保險ハ如何ナル狀態ヨリ發生シタルカト云フニ、ソレハ希臘羅馬其他地中海沿岸ノ海商國民間ニ行ハレタル冒險貸借 Mutuum, Foenus nauticum ヨリ進化發展シタモノデアアル。蓋シ海上商業ニ從事スルモノニハ、常ニ、海難ニヨリテ船舶積荷ガ損害ヲ蒙ルノ危險在在スルノミナラズ、殊ニ古代及ヒ中世ニ於テハ、地中海ニ跳梁跋扈シタル海賊ノ爲メニ略奪ニ遭ヒ、其商業ノ妨害セラルルコト幾何ナルヤ計リ知ルベカラザルモノガアツタ。故ニ此危險ヲ免レ損害ヲ他ニ轉嫁スルノ手段ハ彼等ニ最モ必要ナル事柄デアアル。而シテ其手段トシテ彼等ガ第一ニ採用シタルモノハ海上冒險貸借契約デアツタ。<sup>12)</sup>

9) R. Ehrenberg, Studien zur Entwicklungsgeschichte der Versicherung. (Zeitschr. f. d. g. Versicherungs-Wissenschaft. 1901) S. 368. S. 372 ff.; A. Schaubé, Der Uebergang vom Versicherungsdarlehn zur reinen Versicherung. (Hilfsbrands Jahrb. f. N. u. S. Jena 1894) S. 481 ff.; Kohler, Versicherungsrecht im Dernburgs "bürgerliches Recht" (Halle 1910) VI. Bd. S. 350; A. Manes, Versicherungswesens, 2. Aufl. (Leipzig 1913) S. 25. S. 318; Moldenhauer, Das Versicherungswesen (Leipzig 1911) S. 23.

海上冒險貸借トハ船舶又ハ積荷ヲ抵當トシテ當事者ノ一方(資本主)ガ資金ヲ貸與シ、相手方(貿易業者)ハ其船舶又ハ積荷ガ安全ニ目的の地ニ到達シタルトキニ之ヲ返還スルコトヲ約スル契約デアル。古代ノ貿易業者ハ概ネ船舶ヲ所有シテ自ラ海上運送ヲ行ツタノデアル。而シテ其利息ハ概ネ甚ダ高率デアツタ。元金ノ四分一<sup>13)</sup>乃至三分一。蓋シ海難ニヨリテ船舶積荷ガ沈没スレバ資本家ハ貸金ノ返済ヲ受クルコト能ハザルモノデアアルカラ之ハ已ムヲ得ザル事柄ト言ヘネバナラス。此冒險貸借ナルモノハ、通常ノ貸借ト同様ニ、本來ハ資金ノ融通ト云フコトガ其主タル目的デアアル。乍併、冒險貸借ハ其本來ノ目的以外、尙種種ナル目的ニ役立ツモノデアアル。即チ甲地ニ於テ此契約ヲ結ビテ資金ヲ受取り、之ヲ乙地ニ於テ返済スル場合ニハ資金ノ融通ト云フ本來ノ目的ノ外ニ尙爲替ノ作用ヲナシ、殊ニ此場合積荷ヲ抵當トスルトキハ恰モ爲替ノ如キ作用ヲナシタ。又、冒險貸借ニ於テハ、資金ノ返済ハ、船舶又ハ積荷ガ安全ニ目的の地ニ到着スルコトヲ條件トシ、若シ是等ガ沈没シタル時ハ借主ノ資金返済ノ義務ハソレト共ニ消滅スルモノデアアル。故ニ貿易業者ガ冒險貸借ニヨリテ資金ヲ借入レ置クトキハ、海難ノ爲メニ一方ニ於テ船舶又ハ積荷ヲ失フコトアルモ他方ニ於テハ之ニヨリテ其ノ借入レタル資金ノ返済義務ヲ免ルルコトトナルヲ以テ、結局、財産上ニ於テハ何等ノ損害ヲ蒙ラザリシト同様デアアルコトガデキルノデアアル。故ニ冒險貸借ハ又危險轉嫁ノ目的ニモ役立ツモノデアツタ。

## 三

古代ノ海商國民ハ冒險貸借契約ニ此危險轉嫁作用アルニ目ヲ付ケタ。而シテ彼等ガ此事ニ氣ガ

- 10) Pardessus, Collection de lois maritimes; Bensa, E. II. Contratto di assicurazione nel medio evo.; Goldschmidt, L., Universalgeschichte des Handelsrechts, I. Bd. (以上三書 Reatz 及 Schaubе ニヨル)
- 11) Reatz, C. F., Geschichte des Europäischen Seeverversicherungsrechts, Erstel Theil, (Leipzig 1870) S. 28 ff.; Schaubе, Die wahre Beschaffenheit der Versicherung in der Entstehungszeit des Versicherungswesens. (Hildebrands Jahrb. f. N. u. S. Jena 1893) S. 40 ff.

付キテ後ハ冒險貸借ハ其本來ノ目的ヨリモ何ヨリモ最モ多ク此危險轉嫁ノ目的ニ利用セラルルコトトナツタノデアル。所ガ此冒險貸借ノ利息ハ前述ノ如ク甚ダ高率ノモノデアツタカラ、資金ノ融通ヲ受クル必要アリ、且ツ海上危險ノ轉嫁ヲ欲スルモノハ此高利ヲ忍ンデモ冒險貸借契約ヲ締結シタガ、併シ、只危險ノ轉嫁ノミヲ欲シテ資金ヲ借入ルルノ必要ヲ感ゼザリシモノハ、些少タリトモ、此高利負擔ヲ輕減センコトヲ欲シタ。此ニ於テ此目的ニ適合センガ爲メニ新ナル方法ガ考案セラレタ。此新方法ハ、初メハ、冒險貸借ノ借主ヨリ貸主ヘ形式上再ビ同額ノ資金ヲ貸付クル契約ヲ結ブノデアツタ。即チ實際ハ少シモ資金ヲ受授スルコトナクシテ、資本家ト貿易業者トノ間ニ雙方ガ同時ニ貸主及ビ借主トナツテ冒險貸借契約ト通常ノ消費貸借契約トヲ結ブノデアル、而シテ通常ノ消費貸借契約即チ資本家が形式上借主トナツテキル契約ノ方ノ借入金返済義務ハ、船舶又ハ積荷ガ沈没シタルトキニ之ヲ履行スベキモノトシ、若シ是等ガ目的地ニ安著シタルトキハ此契約ハソレト共ニ消滅スルコトト定メタノデアル。故ニ此場合ニ於テ資本家ト貿易業者トノ關係ハ形式上甚ダ錯雜シテキルガ、實質上ハ船舶又ハ積荷ガ沈没セバ貿易業者ハ契約金額ヲ受領スルコトヲ得ベク、資本家ハ只冒險貸借ノ利息ノミヲ受領スルコトヲ得ルニ過ギナイノデアル。カクテ此場合ニハ實質上資金ノ融通ナキガ故ニ單純ナル冒險貸借ノ場合ヨリモ其利息ハ割合安クナルコトヲ得タノデアル。

カクノ如ク變化シタル冒險貸借ニ於テハ、冒險貸借本來ノ目的タル資金ノ融通ト云フコトハ全クナクナツテ、其經濟上ノ作用ヨリ云ヘバ、之ハ純然タル一種ノ損害填補契約ト云ハネバナラヌモ

- 12) Martin, *ibid.* pp. 2 sqq.; Manes, *ä. a. O.*, S. 23 ff. Moldenhauer, *a. a. O.*, S. 21. Schaubé, *Der Uebergang vom Versicherungslarlehne zur reinen Versicherung*, S. 481 ff.; Ehrenberg, *a. a. O.*, S. 373.  
13) Ehrenberg, *a. a. O.*, S. 373.

ノトナツタ。故ニ此時ヨリ資金融通ト危險轉嫁トハ相分離シタノデアル。而シテ前述ノ單純ナル冒險貸借契約ニ於テモ損害填補ノ作用ハ存在スルガ、之ト此變態冒險貸借トヲ比較スルニ、前者ニ於テハ本來當事者ハ損害ノ發生セザルコトニ重キヲ置クニ反シ、後者ニ於テハ當事者ハ全ク損害ノ發生スルコトアルベキニ重キヲ置イテキル。又此兩者ヲ一種ノ損害填補契約ト云フ方面ヨリ云ヘバ、前者ニ於テハ填補資金ノ前拂ガアリ、從ツテ損害發生セザル場合ニハ其拂戻ガアルガ、後者ニ於テハ資金ノ前拂アルコトナク、只損害ノ發生シタル場合ニノミ其後拂アルダケデアル。故ニ前者ニ於テハ、貿易業者ガ諾約者ノ地位ニ立チ、後者ニ於テハ資本家ガ諾約者ノ地位ニ立ツコトトナルノデアル。又變態冒險貸借ニ於テハ資本家ハ資金(填補資金)ヲ前拂スルノデナイカラ、從ツテ利息ヲ天引スルト云フコトガデキナイ、又貸金ノ返済ヲ受クルコトモナイノデアルカラ利息ヲ元本ト共ニ受領スルノ機會モナイ。故ニ從來利息ノ名ノ下ニ含マレシ危險負擔料、即チ損害填補契約トシテノ報酬ハ、手数料ノ名義ニテ契約締結ノ際ニ前收セラルルコトトナツタ。從ツテ此變態冒險貸借ハ契約上ニハ利息ニ付イテ何等定ムル所ナキ無利息貸借契約 *Zinsfreies Darlehn* トナツタノデアル。

カクノ如キ變態冒險貸借契約ハ單ニソノモノノミヲ見レバ極メテ奇怪ナルモノデアツテ、ソノ史的發展ノ經過ヲ知ラザレバ到底之ヲ正當ニ了解シ能ハザルモノデアル。然ルニ學者或ハ從來發見セラレタル此種契約ヲ解釋シテ、此契約ハ實質上危險負擔料ナルモノヲ元金ノ形式ニテ貿易業者ヨリ資本家ニ貸與シ、損害發生セバ資本家ハ之ヲ(但シ元金ニ數倍スル金額)返済スルノ義務ヲ

負ヒ、損害生ゼサレバ此返濟義務ハ當然消滅スルコトヲ約シタルモノニテ、丁度普通ノ冒險貸借ノ逆ヲトリタル假裝冒險貸借デアルト説明スルモノガアル。<sup>14)</sup>乍併斯ノ如キハ此契約ノ發展的經過ヲ無視シタルヨリ生ズル誤論デアル。

ソハ兎モ角右ニ述ベタル變態冒險貸借ヲ以テ海上保險ノ最モ原始的ナル形態トナスハ現今學者ノ通説トスル所デアル。而シテ學者或ハ此形態ニ於ケル保險ヲ保險貸借契約 *Versicherungsdarleh* ト名ヅク、<sup>15)</sup>又ハ準保險 *quasi-insurance* トモ云フ。斯ノ如キ形態ニ於ケル海上保險ハ凡ソ一三四〇年代迄行ハレタ様デアアル。而シテ此時代ニハ未ダ保險證券ナルモノナク、契約ハ凡テ公證人役場ニ於テ締結サレタモノデアアル。  
此種契約ニシテ今日迄ニ發見サレタル最古ノモノハ一三四七年十月二十三日附ノ船體保險契約ト、一三四八年一月十五日ノ積荷保險契約トデアツテ、共ニゼのあノ公證人役場書庫ヨリ出<sup>16)</sup>デタモノデアアル

#### 四

冒險貸借契約ヨリ發展シタル海上損害填補契約即チ海上保險契約ハ右述ブルガ如ク形式上甚ダ錯雜シタル保險貸借契約ノ形態ヲトルニ至ツタガ、更ニ又之ヨリ轉化シテ賣買契約 *emptio/ventitio* ノ形態ヲモトル様ニナツタ。即チ之ニヨレバ、資本家ハ貿易業者ヨリ船舶又ハ積荷ガ沈没スルナラバ其代價ヲ仕拂ヒ其所有權ヲ獲得スルト云フ條件ニテ之ヲ買受クル契約ヲ結ブノデアアル。故ニ若シモ此條件ノ成就セザルトキ、換言スレバ船舶積荷ガ目的地ニ安着スルトキハ此契約ハ當然解除セラルルコトトナルノデアアル。而シテ危險負擔料ハ手附ト云フ名義ノ下ニ契約締結ノトキニ貿易業者ヨリ資本家ニ支拂ハルルノデアアル。此形態ニ於ケル損害填補契約ニシテ今日迄ニ發見サレ

14) Kohler, Versicherungsrecht S. 351.

15) Schaub, Der Uebergang vom Versicherungsdarleh zum reinen Versicherung (Hildebrand, a. a. O.,) S. 487, ff.

16) Schaub, a. a. O., S. 484, 485.

タル最古ノモノハ一三七〇年六月十三日附ノ公正證書デアル<sup>17)</sup>。

冒險貸借ノ形態ヲ捨テ買賣ノ形態ヲトルニ至ツタ原因ハ、一ハ後者ノ方ガ其形式一層簡單ナルト、又一ハ前者ハ其形態上極メテ高利契約ニ類似シテ居ルカラ當時利息契約禁止ノ見解ヲトレル寺院法ニヨリテ屢々非難ヲ受ケタカラデアル。勿論寺院法ノ利息禁止令ハ既ニ久シキ以前ヨリ度々發布セラレ殊ニ一三三〇年法王ぐれぐりい九世 Gregoryノ禁令ナド有名ナモノデアツテ、保險契約ガ冒險貸借契約ヨリ離脱セシハ、此禁令ノ影響デアルト云フ學者モアル程デアルガ、併シ實際其影響ヲ及ボシタモノハ一三六九年十月二十一日せのあ公がぶりえれ・あるの Gabriele Adornoノ禁令デアラウ。何トナレバ、今日迄發見セラレタル此種契約ニシテ冒險貸借ノ形態ヲトレルモノハ一三六〇年代迄存シ一三七〇年代ニ入ツテハ概ネ買賣契約ノ形態ヲトツテキルカラデアル<sup>18)</sup>。

右ノ假裝買賣契約ハ其實質ニ於テハ純然タル損害填補契約ト云フコトヲ妨ゲナイ。故ニ之ガ其實質ニ於テモ其形式ニ於テモ眞實ノ填補契約ニ變遷スルハ極メテ些少ノ變化タルニ過ギナイノデアル。換言スレバ、資本家ガ船舶又ハ積荷ヲ買受ケ之ガ沈没セバ其代價ヲ支拂ヒ、之ガ安着セバ此契約ヲ解除スルト云フコトヲ約スル代リニ、之ガ沈没スレバ其損害ヲ填補スルト云フコトヲ約スルハ、只契約ノ形式ヲ簡單ニシタルニ過ギナイノデアル。故ニ海上保險契約ガ假裝買賣契約ノ形態ヲ捨テテ名實共ニ損害填補契約トナルニ至ツタノハ之ヨリ後間モナキコトデアル。即チ今日迄ニ發見サレタル古文書ノ中一三八四年六月十一日附ノモノハ既ニ名實共ニ純然タル損害填補契

17) Schaubé, a. a. O., S. 490.

18) Manes, a. a. O., S. 24

19) Schaubé, a. a. O., S. 490, 494.

約デアル。而シテ從來ノ文書ハ皆公證人ノ作成シタル證書デアツタガ、之ハ中立人 *Scirel*ノ作成シタル證書デアル。此書面ハびるニ於テ作成セラレタルモノデ其ノ冒頭ニ三人ノ保險者ガ其氏名ト各自ノ引受金額トヲ記載シ、而シテ證書面ノ積荷ガ海難ニヨリテ損害シタル場合ニハ、各其引受額ノ割合ニ應ジテ填補金ヲ支拂フ旨ヲ詳細ナル條項ニヨリテ規定シテ居ル<sup>20)</sup>。恐ラクハ之ガ今日存在スル所ノ最古ノ保險證券デアラウ<sup>21)</sup>。尙一三九七年六月十日ノふろおれんつ證券モ全ク之ト同性質ノモノデアル<sup>22)</sup>。

## 五

古代ノ冒險貸借契約ヨリ出デテ右ノびる及ヒふろおれんつノ保險證券ニ至リテ海上保險ハ先ヅ其保險タルノ形式ヲ備ヘタモノト云フコトガデキル。蓋シ、所謂保險貸借契約又ハ、準保險契約モ事實上ハ有償ニテ海難ニ因ル損害填補ヲ約スルコトトナルノデアルガ、之ハ形式ニ於テ他種ノ契約ヲ假裝シ、未ダ明ラサマニ損害填補契約タル形式ヲ具ヘナカツタ。然ルニ右ノびる證券ニ至リテハ明白ニ有償損害填補契約タルコトヲ證券上ニ於テ表示スル獨立ノ契約トナツタカラデアル。故ニ通説ハ、前ニ述ベタルガ如ク、第十四世紀ノ後半期ヲ以テ海上保險發顯ノ時期ナリト認メ、余モ亦此點ニ關シテハ全ク通説ニ同意スル。乍併、正確ニ言ヘバ、余ハ、此狀態ニ於ケル海上保險ハ之ヲ原始的海上保險ト云フベクシテ、今日ノ保險トハ明ニ區別セネバナラヌモノデアルト思フ。何トナレバ此狀態ニ於ケル海上保險ハ之ヲ一個ノ契約トシテ見レバ今日ノ保險契約ト外見上殆ト何等ノ差ヲ認ムルコトヲ得サレドモ、之ヲ一ノ經濟上ノ制度又ハ經濟上ノ仕組トシテ觀

20) Schaubé, a. a. O., S. 498.

21) Moldenhauer, a. a. O., S. 23.

22) Schaubé, a. a. O., S. 500.



察スルトキハ、眞ノ『保險』タルニ尙重大ナル要素ニ於テ缺クル所アルカラデアル。而シテ此原始の海上保險ガ其缺クル所ノ要素ヲ具備シ眞ノ『保險』即チ現代の保險タルニ至ルニハ尙三世紀ノ星霜ヲ要シタ。ソハ兎モ角、海上商業ニ缺クベカラザル所ノ此海上危險轉嫁ノ方法ハ、ソガ冒險貸借ノ形態ヨリ原始の保險ニ變遷シツツアリシ間、殊ニ、ソガ原始的保險トナリシ以後ハ一層速ニ、歐洲海商國民ノ間ニ擴ガツタノデアル。而シテ就中、中世ニ於テ其最モ盛ニ行ハレタリシ所ハ前述ノ伊太利諸都府ヲ始メ、ばるせろな Barcelona よりゆじ Bruges りすばん Lisbon 等デアツタ。而シテ是等ノ國民ノ中先ヅ倫敦ニ來リテ外國貿易ヲ開キタルハふらんどる人 Flanders ニシテ之ニ次グモノハろんばるぢあ人デアル。ふらんどる人(倫敦デ所謂 Steelyard merchants)ハ第十一世紀ノ頃ヨリ來往シ、ろんばるぢあ人ハ第十三世紀ノ中葉ヨリ來往シテ居ツタ。故ニ海上保險ハ其冒險貸借時代ヨリ彼等ニ於テ既ニ倫敦ニ行ハレ居タコトハ推察スルニ難カラザル所デアル。<sup>23)</sup>

今日迄ニ發見サレタル英國保險證券ノ最古ノモノハ一五四七年九月廿日附ノモノデアツテ、伊太利語ト英語トニテ併記サレ前述ノびさ及ヒふろおれんつ證券ト其内容ニ於テ大差ナキモノデア<sup>24)</sup>ル。而シテ第十七世紀ニ至ルマデ英國ノ海上保險ハ外國商人殊ニ主トシテろんばるぢあ人ニヨリテ營マレタモノデア<sup>25)</sup>ルガ、第十七世紀ニ入リテ後ハ英國人自ラ之ヲ營ム様ニナリ、同紀末葉ニ至リテハろいど保險者 Lloyd's underwriters ナル名稱ガ海上保險界ニ重キヲナスニ至ツタ。

## 六

以上ハ海上保險ガ冒險貸借ヨリ出デテ現代の保險トナルニ至ル迄ノ進化ノ梗概デア<sup>26)</sup>ル。而シテ

23) Martin, *ibid.* pp. 7 sqq. p. 31.

24) Vance, *Early History of Insurance Law* (Columbia Law Review, Vol. III 1908) p. 12.

25) Martin, *ibid.* pp. 33 sqq.

之ニ由レバ海上保險ハ投機心ノ盛ナル資本家ト、海上危險ノ轉嫁ヲ欲スル貿易業者トノ間ニ生タルモノナルガ故ニ、其發顯ノ形態ハ初メヨリ資本主義的營利的ノモノデアツタト見ナケレバナラス。乍併、海上保險發展ノ史的事實ニ關シテハ、勿論幾多ノ異説ガアル、而シテ其異説ハ(一)發顯ノ時期ニ關スルモノト、(二)發顯ノ地ニ關スルモノト、而シテ(三)發顯ノ形態ニ關スルモノトニ分ツコトガデキル。

(一) 發顯ノ時期ニ關シテハ、或ハ遠ク希臘ノ盛時ニアリト云ヒ、或ハ羅馬帝國時代ナリト云フモノガアル。若シ單ニ損害填補ヲ約スル凡テノ方法ヲ廣ク保險ナリト見做サバ、保險ハ希臘羅馬ノ時代ハ勿論ノコトふえにきあ人 Phoenicians 及 Rhodians ノ間ニモ存在シタデアラウ。乍併、保險ヲ以テ、少クトモ、損害填補ヲ約スル有償ノ契約タル獨立ノ形態ヲ具フルコトヲ要スルモノト見ルナラバ、羅馬法ニハ未ダ如斯契約ニ關スル何等ノ規定ナキガ故ニ羅馬帝國時代及ビソレ以前ニハ未ダ海上保險行ハレザリシモノト看做サナケレバナラス。又急めりごん Emerigon 及ビばるでつす Pardessus ハ羅馬ニハ未ダ海上保險一般ニ廣ク行ハレザリシコトヲ認ムレドモ、而モリぶろす Livius 及 Suetonius ノ歴史、又ハきける Cicero ガあるすちうす Salustius ニ與ヘシ書簡ノ文言ニ據リテ海上保險ノ原則ハ羅馬人ノ知所ナリシト主張シテ居ル。乍併、是等ハ皆單ニ軍事上又ハ公益上必要ナル貨物(又ハ貨幣)ノ海運上ノ危險ハ羅馬政府ニ於テ負擔スベキコトヲ論ジ又ハ其負擔シタル事跡ヲ記シタルニ止マリ海上保險トハ全ク無關係ナル事柄デアル。<sup>26)</sup> 又どうハ第十二世紀ノ末又ハ第十三世紀ノ始メヲ以テ其發顯ノ時期ナリト推定シテ居ルガ、

26) Kirkaldy, British Shipping (London 1914) p. 240.

27) Vance, Early History of Insurance Law. p. 6.; Reatz, a. a. O., S. 24.

28) Vauce, Handbook of the Law of Insurance (Minn 1904) p. 3; Gow, Marine Insurance (London 1914) pp. 2 sqq.

29) Reatz, a. a. O., S. 20 ff.; Vance, ibid. pp. 2 sqq., v. 6.

之ニハ何等ノ證據ガ示サレテ居ナイ。<sup>30)</sup>

次ニハ前述ノ第十四世紀前半期說デアルガ、此說ハ當時ノ商關係書類ニ Signature ナル語アルヲ見テ之ヲ其主ナル證據トナスノデアル。<sup>31)</sup>勿論此 Signature ナル語ハ今日ノ伊太利語 Assicurare ノ元ノ言葉デアルカラ、之ニ「保險」ト云フ意味モナイデハナイガ論者ノ引用スル所ノ文書ニ於テハ、未ダ之ヲ保險ナル意義ニ用キタノデハナクテ、ムシロ他ノ意義(場所ニヨリ「抵當」「擔保」「護衛」「負擔」等)ニ用キタルモノデアルト解釋スルガ正當デアル、從ツテ之ニ據リテハ未ダ當時保險存在セリト主張スルコトヲ得ナイト云ハレテ居ル。<sup>32)</sup>

(二) 發現ノ地ニ關スル異說ハ其主ナルモノ二ツアル。其一ハふらんだるノぶりゆじヲ以テ發顯地ナリトスルモノデアツテ、其二ハ葡萄牙ノりすばんヲ以テ發顯地トスル說デアル。前說ハ Chronyk van Vlaenderen, cap. 40. S. 462 ニ一三二四年ぶりゆじ市住民ノ願ニヨリふらんだるノ領主ガ該市ニ保險局 Kamer van Verzekering ヲ設立シ、之ヲシテ一定料金ニヨリテ商品ノ海運上ノ危險ヲ引受ケシメタリト云フ記事アルニ基クノデアル。<sup>33)</sup>當時ノぶりゆじハ外國貿易隆盛ニシテはんぞ同盟ニ於テ重キヲナス都市デアツタ。乍併ぶりゆじヲ以テ海上保險發顯地トナス說ハ今日一般ニ疑ハシキモノトシテ排斥セラレテ居ル。<sup>34)</sup>蓋シ右ノ保險局ニ關スル記事ハ孤立的ニシテ前掲記錄以外ニハ此事實ニ關シ證據トスベキ何等ノ書類發見セラレザルノミナラズ、若シ此ノ如キ制度ガ實存セシナラバ、當時ぶりゆじト商關係ノ密接ナリシ海商國民間ニ利用セラレ傳承セラレナクレバナラス筈デアルガ、此等ニ付イテモ全ク何等ノ證據書類存在シナイカラデアル。<sup>35)</sup>後說ハれあ

30) Gow, ibid. p. 3.

31) Schaub, Die Wahre Beschaffenheit der Versicherung in der Entstehungszeit des Versicherungswesens. (Hildebrand, a. a. O., 1893) S. 41.

32) Reatz, a. a. O., S. 33; Schaub, a. a. O., 41ff.; Derselbe, Uebergang. a. a. O., S. 501.

つづノ主張スル所ニシテ其論據トスル所ニツアル。<sup>33)</sup>第一點ハ推理上ノ論據ニシテ、第二點ハ文献上ノ根據デアアル。第一點ハ次ニ述ブル發顯ノ形態ニ關スル異說ヲ批評スル際ニ譲リ、此ニハ第二點ノミヲ批評スル。此說ハ葡萄牙ノ史家ふるゐるにあをゐるべす Fernão Lopes ノ著ふるゐるなんど王紀 Chronica delRei D. Fernando ニ、同王ガ葡萄牙王國ノ海外貿易及ヒ海上運送ヲ隆盛ナラシメンガ爲メ國家ノ監督ノ下ニ強制的ニ同國ノ船舶所有者ヲシテ相互海上保險會社ヲ設立セシメタリト云フ記事アルニ基クノデアアル。乍併、此葡萄牙王國強制相互保險ニ關スル記事モ、前ノふりゆじ保險局ノ記事ト同様孤立的デアツテ、習テばるでつすノ指圖ニヨリ同國ノ全文庫ヲ搜索シタルモノアリタレドモ、此保險會社并ヒニ其設立ニ關スルふるゐるなんど王令ヲ記載シタル古文書ハ一モ發見サレナカツタト云フコトデアアル。故ニれあつツノ辯護アルニ拘ハラス此ろべすノ記事ハ餘リ重要視スルコトハデキナイ。

(三) 發顯ノ形態ニ關スル異說ハ、海上保險ハ冒險貸借ヨリ出テテ初メヨリ資本主義的營利的ナル形態即チ Versicherung gegen Prämie; Commercial Insurance ノ形態ヲトリタルモノニアラズシテ、寧ロ相互主義的非營利的ナル形態即チ auf gegenseitigkeit beruhende Versicherung; Mutual Insurance ノ形態ヲトリタルモノナリト云フ說デアアル。之ニ付イテモ或ハ古代ノ海外貿易家ハ其航海ヲナスニ當リ相約シテ海難ニ因ル損害ヲ相互ニ分擔スル慣習ヲ作ツタガ、之ガ海上保險ノ起原デアルト云フ說モアルガ<sup>34)</sup>之ニ就イテハ今日ノ共同海損分擔ニ類似スル慣習ノ外、何等特別ニ保險類似ノモノト認ムベキ慣習ニ關シテ史的證據トナルモノナク、又縱シ斯ノ如キ事實アリタリトスルモ之

33) Martin, ibid. pp. 6 sqq.

34) Manes, a. a. O., S. 22.

35) Reatz, a. a. O., S. 38-39.

36) Reatz, a. a. O., S. 40 ff. 本誌第四卷第六號拙稿「海上保險發展史ニ關スル一異說」參照

37) Kirkaldy, ibid. pp. 240 sqq.

ガ直接ニ今日ノ海上保險ノ起源ヲナシタリト認ムルコトヲ得ナイ。此說ノ中稍重キヲ置クベキハ前述ノれあつツノ說デアル。即チれあつツハ海上保險ノ起源ヲ葡萄牙王國ノ強制的相互保險ナリトノ主張ヲナスニ當リ、其推理上ノ論據トシテ、凡ソ事物ハ其發顯ノ最初ニ於テハ混沌不完全ナルモノデアルガ、之ガ次第ニ進化シテ完全ナル形態ヲ具フルニ至ルハ自然ノ法則デアルト云フコトヲ舉ゲ、海上保險モ亦此法則ノ例ニ漏レズ、其發顯ノ最初ニ於テハ不完全ナル相互的ノモノデアツテ、一定ノ保險料ヲ前收シテ行フ様ナ完全ナモノデナク、此相互的保險ヲ永ク行ヒ保險料算出ニ付イテ相當ノ經驗ヲ積ンデ而シテ後營利的ナル保險トナルコトヲ得タモノデアル、此相互的保險ノ形態ヲ經過セザレバ營利的保險ノ形態ニ移ルコト能ハザルモノデアル、而シテ葡萄牙王國ノ強制相互保險ガ恰モ此營利的保險成立ニ缺クベカラザル經驗ヲ與ヘタモノデアルト說イテキル。乍併前述ノ如ク。葡萄牙王國ノ保險ニ付イテハ事實ソノモノニ付イテ尙疑フベキ點アルノミナラズ、假リニ其實實ハ存在シタルモノナリト見做スモ、此相互保險ヨリ今日ノ保險ニ進化シタル其經過ヲ證明スベキ史的事實ハ一モ存在シテ居ナイ。加之、不完全ヨリ完全ニ進ムハ動カスベカラザル一般ノ原則ナルニシテモ、海上保險ガ今日ノ狀態ニ達スルニハ必ズ相互保險ノ形態ヲ經過セネバナラヌモノナリト云フコトヲ斷定スルコトハデキナイ。彼ノ冒險貸借ノ形態又ハ保險貸借契約若シクハ準保險ノ形態ニ於ケル保險モ、明ニ不完全混沌タルモノデアツテ、決シテ完全ナルモノデナク、又斯ノ如キ形態ニ於テ資本家ガ永ク損害填補ヲ引受ケテキル間ニモ保險料算出ニ要スル經驗ヲ積ムコトヲ得ルハ疑ナキ所デアル。故ニ今日ニ於テハれあつツノ說モ學界ニ重キヲナス

コトヲ得ナイノデアル。

## 七

余ハ右ヲ以テ概略、海上保險發顯ノ史的事實ヲ述ベ、且ツ之ニ關スル異說ヲ批評シタ。海上保險ハ前述ノ行程ヲ經テ、余ノ所謂原始的保險ノ狀態ニ達シ、暫ク其內面の進化ヲ止メタリト雖モ、外部のニハ大ニ發展シテ歐洲諸國ニ擴ガリ、カクテ第十八世紀ノ前半期ニ至リテ英國ニ於テ再ビ內面の一進展ヲ遂ゲテ現代的保險トナツタノデアル。依テ、余ハ其現代的保險ニナリタル事情ヲ進ンデ述ブベキデアルガ、之ニ付イテハ生命保險ノ影響モ大ニ與ツテ居ルノデアルカラ、余ハ更ニ生命保險及ヒ火災保險ノ原始的狀態ニ於ケル發達ヲ述ベナケレバナラヌ。

但シ茲ニ一言セザルベカラザルコトハ、余ノ所謂原始的の海上保險ヲ一般ノ學者ハ現代的保險ト同視シテキルコトデアル。即チ海上保險ガ第十四世紀ノ後半期伊太利諸市ニ於テ *Versicherungs-darlehn* 又ハ *quasi-Insurance* ノ狀態ヨリ形式上獨立ノ損害填補契約トナリタルトキヲ以テ既ニ之ヲ呼ベニ *Modernen Versicherung, reinen Versicherung* 又ハ *Versicherung im heutigen Sinne* ナル語ヲ用キ、或ハ *Modern Insurance* 又ハ *Insurance in our days* 等ト稱シテキルガ、是等ハ此原始的の保險ト現代的の保險トノ形式上ノ一致ノミヲ見テ、深ク其實質上ノ差異ニ注意セザルガ爲メデアル、換言スレバ第十八世紀以前ノ保險ト第十八世紀以後ノ保險トニ付イテ實質上ノ區別ヲ認メザルニ因ルノデアル。然ラバ其實質上ノ差異如何。ソレハ現代的保險ノ成立ヲ説明スル所ニ至ツテ明ニナルデアラウ。

(未完)